

領家

介護

を
考
え
る

会



1. 「領家介護を考える会」とは

「領家介護を考える会」は、介護保険制度がスタートした2000年に設立され、「地域における介護や医療問題を共に考え、共に支え合う」をモットーに活動している市民グループです。

会員の多くが介護体験を持っている、介護や福祉に関わる仕事をしていた、年金や財産管理の問題にも専門的な対応ができる、というのが「領家の会」(略称)の特徴です。

2. 活動の目的

「高齢になっても、体が不自由になっても、自分らしく暮らしていきたい」と願う人と共に、地域で暮らす知恵を出し合い、支え合うこと。

「領家の会」問合せは

野辺 (048-886-0336)

河辺 (048-824-4601)



領家介護を考える会が、介護のさまざまなことを、いつしよに考え、体験や専門知識をもとに相談に応じ、たがいに支え合う市民グループです

こんな活動をしています

◆ 公開講座の開催

地域住民の方々、現在介護をしている人（ケアラー）を対象に、年に3～4回の公開講座を開いています。介護保険制度や介護サービス、認知症の問題、遺言や財産管理、終活について、など様々なテーマを取り上げています。2013年12月現在、開催した講座は50回以上になります。会場は領家公民館です。

【領家介護の会が行った主な講座】▶

「他人事ではない認知症—認知症サポーター養成講座」「在宅での看取りから日々の介護まで」「ヨガで心もからだもゆったりと!!」「家族がガンをつけられたとき—介護と看護、看取りまで」「シニア時代のライフスタイル—老後の住まいは?」「介護サービスの利用法と、なんでも相談会」「私の介護体験—義母と両親を介護して」「高齢者虐待、他人事ですか?—介護者を追いつめてしまうもの」「どうなる? あなたの年金—年金をめぐる最近の動き」「医療と介護—地域の最新情報!」「口腔ケア、はじめよう、お口のチェック!」「私の話を聴いて! 傾聴ボランティアとは?」「ガンと付きあいながら考える、私の“こうありたい最期”」「葬送の現状とあり方—自分らしいお葬式を考える」



2013年10月6日に、領家介護を考える会が主宰した「ガンと付きあいながら考える、私の“こうありたい最期”」講座の様子。ガンと闘病する当事者自身が、そんぶんに語りました。



2004年に調査・編集・発行した「安心して暮らしたい私たちのまち」には、浦和区北部の介護・福祉施設や、バリアフリーのトイレ、店などの情報を網羅しました。

◆ 相談活動と地域の情報提供

2004年には介護・福祉マップ『安心して暮らしたい私たちのまち』を作成し、地域に配布しました。公開講座を通して地域の一人暮らしの方々や高齢所帯の皆さんと親しくなり、介護や年金問題等についてのご相談があれば応じています。また、「浦和区健康まつり」、「わくわく浦和区フェスティバル」などに「浦和区市民活動ネットワーク」の一員として参加、「介護・年金相談コーナー」を設け、悩みや困りごとを傾聴しつつ相談に応じています。

◆ 地域でのネットワーク活動

支え合い活動の一員として地域のネットワーク活動に参加しています。

- *さいたま地域サポートネットワーク
- *終活を考える会・埼玉
- *浦和区市民活動ネットワーク